

2. みどりの現況と課題

2-1. 現況と課題の整理の仕方

(1) みどりの分類

前計画における緑は、「緑の骨格」「緑の拠点」「緑の軸」「市街地（住宅地、商業地、工業地など）」という構成で整理し、緑の将来像図に示しています。

本計画では、前計画の緑の構成や基本的な考え方を受け継ぎ、みどりを以下の分類に整理します。

みどりの骨格：東部の里山、淀川などの市の骨格を形成するまとまりのあるみどり

みどりの拠点：公園などの市民が憩い、身近な自然とふれあう拠点となるみどり

みどりの軸：河川や道路などのネットワークを形成する軸となるみどり

みどりの土地利用：住宅地、商業地、工業地などのみどり

(2) 現況と課題整理の区分

みどりの課題は、「緑地資源」と「みどりづくりの仕組み」に分類、整理します。このうち、「緑地資源」に関する課題は「みどりの骨格」、「みどりの拠点」、「みどりの軸」、「みどりの土地利用」に分類し、多様な主体の連携などに関する課題は「みどりづくりの仕組み」として整理します。

下表の5つの分類は、みどりの種類や特性に応じて、さらに21の区分に細分化したもので、区分ごとに現況と課題を整理します。

現況と課題整理の区分

分類		区分	
緑地資源	みどりの骨格	東部の里山	
		淀川	
	みどりの拠点	公園	開設済みの公園
			未開設の公園
		農地	
		ため池	
	みどりの軸	船橋川・穂谷川・天野川	
		道路	整備済の道路
			未整備の道路
	みどりの土地利用	住宅地	計画的な住宅団地※1
			歴史的な家並みが残された集落※2
			一般住宅地
		商業地	鉄道駅周辺
			沿道商業地
		工業地	大規模工場地※3
中小工場地※4			
公共公益施設等			
みどりづくりの仕組み	多様な主体の連携		
	情報発信・意識啓発		
	財源確保		

※1) 計画的に整備された住宅団地（ニュータウン）

※2) 旧街道沿いの集落や市内に点在する農村集落

※3) 敷地面積が9,000㎡または建築面積が3,000㎡以上の大規模な工場の集積地

※4) 3)以外の工場集積地



※図は課題区分に含まれる箇所の代表として示したもので、箇所を網羅したものではありません
課題整理の区分の概念図

2 - 2 . 緑地資源からみた課題

(1) みどりの骨格

1) 東部の里山

【現況】

- ・東部の里山は、穂谷川と船橋川の源流部にあたり、人と自然との長い関わり合いの中で形成されてきた自然環境が広がっています。
- ・里山の生態系は、山裾に広がる水田地帯や棚田などの豊かな自然環境のもとで維持されています。
- ・市民アンケート調査結果では、約45%の方が枚方市で特に大事にすべきみどりは「里山などのまとまった自然のみどり」であると感じています。
- ・市民ワークショップなどでは、里山にもっと関心を持ってもらい、多くの人に利用してもらいたいという意見がある一方、来訪者のごみのポイ捨てが増えて環境が悪化することを里山の地域住民が懸念しているという意見がありました。
- ・里山は、農村生活や農作業など人の手が入ることで保全されてきましたが、森林管理や耕作地の放棄など、管理が不十分である状況が見られ、竹林の拡大、生育環境の変化による動植物の種類や数の減少、ナラ枯れの被害が生じています。
- ・里山やその周辺では、特定外来生物であるアライグマの生息やメリケントキンソウなどの外来植物の侵入が確認されており、生態系への影響が懸念されています。



東部の里山



枚方市野外活動センター

【課題】

里山の自然環境の保全・活用

- ・人手不足や担い手不足などにより、里山の耕作地や森林の管理が行き届いていない状況や自然環境が悪化している状況は、近年深刻な問題となっているため、里山の自然環境を保全し、活用していく取り組みが求められます。

2) 淀川

【現況】

- ・淀川の広大な河川敷や水辺空間などの自然環境は、多くの人がある恵みを受し、利用する場となっています。
- ・淀川は、地域のイベント等が開催され、枚方らしい風景として「枚方八景」に選ばれるなど、沿岸地域の風土・文化を育んできた貴重な財産となっています。
- ・淀川の水質や環境は、流域における都市化の進展に伴って悪化するとともに、人と川とのつながりは薄れていきました。しかし、現在では下水道の普及やワンドの再生、河川敷の切り下げなど、環境再生の取り組みによって水質が改善し、淀川本来の自然とふれあい、親しめる環境が戻りつつあります。
- ・再生された楠葉ワンドでは、湿地性の希少植物や淡水魚の生育が確認されるなど、環境再生に向けた取り組みの効果がみられる一方、特定外来生物であるアライグマなどの生息が確認されており、動植物の在来種への影響が懸念されています。
- ・淀川河川公園は、「淀川河川公園基本計画」に基づき、淀川らしい利用ができるよう親水・親緑空間などの整備が進められていますが、河川敷のゴルフ場によりワンドや水辺にアクセスしづらい状況が見られます。



淀川河川公園



楠葉ワンド

【課題】

淀川の自然環境の保全・活用

- ・淀川の自然環境は、長い時間をかけて保全・再生され、地域の貴重な財産となっていることから、多くの人がある淀川に関わり、見守りながら淀川にふさわしい自然環境を保全し、活用していくことが求められます。

淀川らしい親水・親緑空間の確保

- ・淀川らしい利用ができる公園整備を進めていくためには、自然環境との調和に配慮しながら、水とのふれあいなど河川の魅力を發揮し、淀川ならではの特性を活かした親水・親緑空間を確保していくことが求められます。

(2) みどりの拠点

1) 公園

①開設済みの公園

【現況】

- ・公園は、市民が身近に自然と親しみ、ふれあう場であり、市民アンケート調査結果では、約65%の方が枚方市で特に大事にすべきみどりは「公園・緑地のみどり」であると感じています。
- ・市民のライフスタイルや公園の利用の仕方は、少子高齢化や人口減少に伴って変化しており、市民が公園に求める多様なニーズに十分対応できていない状況が生じています。
- ・市民アンケート調査結果では、約50%の方が「あまり利用されていない小規模公園は周辺住民に管理や使い方を任せてほしい」と考えており、地域ニーズに合わなくなった公園を自らの手で改善したいという意見もあります。
- ・都市公園の約60%は、開設後30年以上が経過しており、公園施設の老朽化が進み、維持管理・補修費が増加していくことが懸念されます。
- ・市民からは、公園の除草や樹木管理の不足や利用者のマナーに対する改善などの要望があります。特に、下枝や雑草が生い茂り見通しが悪くなると、防犯上良くない状況となります。
- ・公園は、災害時の広域的な避難場所や一時的な避難場所としての役割があります。防災公園の車塚公園には、耐震性貯水槽や非常用トイレなどの防災設備が設置されています。
- ・市民アンケート調査結果では、約35%の方が「防災機能を備えた公園」をつかってほしいと感じており、防災機能の充実が求められています。



公園での雑草の繁茂



小規模公園（ちびっ子広場）



公園利用の状況



公園利用の状況

【課題】

地域のニーズに合わせた公園の再生

- ・ 少子高齢化や人口減少、ライフスタイルの変化に伴い、市民の公園の利用の仕方や公園に求めるものは変化していることから、地域の多様なニーズに対応するため、防災機能の強化や生物の生息・生育環境としての機能を充実させるなど、魅力的な公園への再生や利用状況に応じた小規模公園の統廃合が求められます。

市民の公園への関わりの強化

- ・ 地域ニーズに合った公園の再生や維持管理、使い方などの要望に十分応えていくためには、公園の再整備に関わる提案や維持管理の一部を地域住民に委ねるなど、市民の公園への関わりを強化する仕組みづくりが求められます。

公園施設の効率的な維持管理

- ・ 公園施設の老朽化は進みつつあり、維持管理・補修費の増加が予測されることから、施設の長寿命化を図り、維持管理を計画的、効率的に進めていく方策について検討が求められます。



公園の非常用貯水槽



公園の備蓄倉庫



花と緑のまちづくり事業による
公園再生

②未開設の公園

【現況】

- ・平成 26 年度末現在、都市計画公園・緑地の 103 箇所（面積 408.39ha）のうち、整備に未着手なものは 14 箇所（面積 42.32ha）となっています。
- ・未着手・未完成の都市計画公園・緑地は、都市計画決定されてから 30 年以上経過しているものが多く、その間に少子高齢化や人口減少、土地利用などの周辺の状況が決定当初から大きく変化しています。
- ・既存の公園施設の維持管理費の増大も懸念され、また財源も限られる中で、未着手・未完成の都市計画公園・緑地の全てを整備していくことは難しくなっています。

【課題】

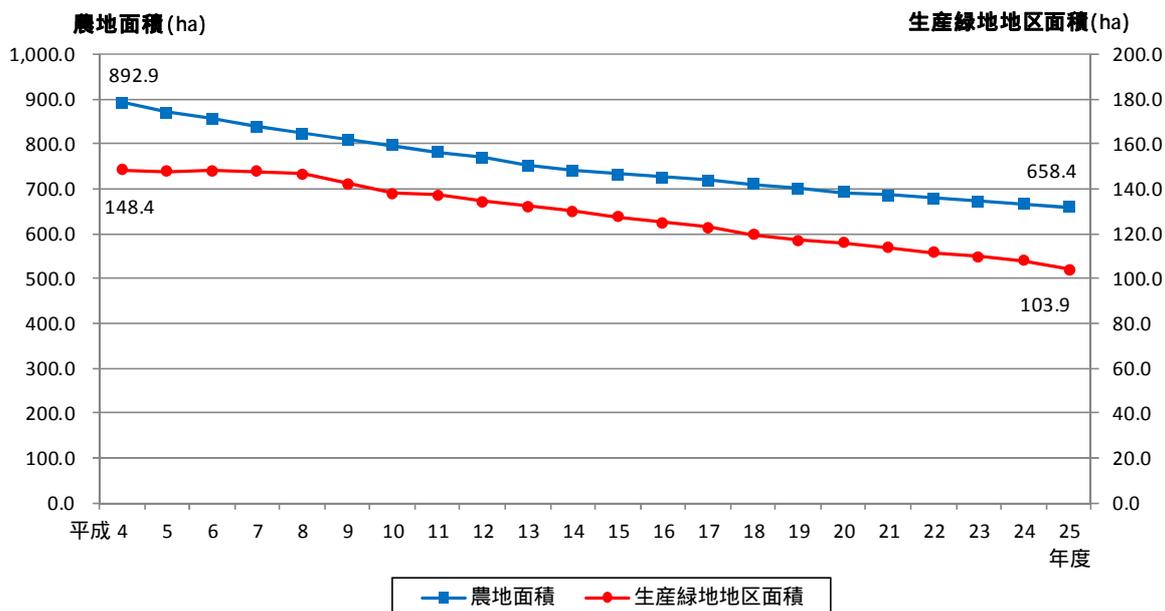
未着手・未完成の都市計画公園・緑地の必要性の検討

- ・社会状況が変化する中、みどりの不足する地域については、公園に限らず実質的なみどりを確保する必要があるため、今後のまちづくりのあり方をふまえつつ、地域のニーズ、既存のみどりの現状と機能、整備の実現性を勘案し、整備の方向性を再検討することが求められます。

2) 農地

【現況】

- ・市内の農地には、ミズワラビやアゼナ、トノサマガエルなどの動植物が見られ、農地・ため池・用水路などが一体となった生物の生息・生育環境が維持されており、市民からは、身近に自然とふれあえる場として評価されています。
- ・農地には、雨水を一時的に貯留し、洪水や内水氾濫を抑える働きがありますが、面積の減少により、農地が果たす防災面での機能の低下が懸念されます。
- ・市街化区域の農地は、規模が小さいものの農産物の供給に加え、潤いのある景観や雨水の貯留など、貴重なみどりとしての役割を果たしています。
- ・市街化調整区域の農地は、ため池や水路と一体となった水環境や生物多様性の保全、美しい田園景観の提供、雨水の貯留など、多面的なみどりとしての役割を果たしています。
- ・農地全体の面積は、高齢化による担い手不足や住宅地開発により、平成4年の892.9haから平成25年の658.4haへと、21年間で約25%減少しています。生産緑地の面積も平成4年の148.4haから平成25年の103.9haへと、21年間で約30%減少しています。
- ・耕作放棄地の面積は、少子高齢化や人口減少、担い手不足などの影響によって、増加しており、平成12年の16haから平成22年の33haへと約2倍に増えています。
- ・市民ワークショップなどでは、高齢化により農業後継者がいないという意見がありました。



※資料 農地面積：各年度1月1日現在

平成4～18年度：自治大阪（（財）大阪府市町村振興協会）、

平成19～25年度：土地に関する概要調査報告書

生産緑地地区面積：各年度11～12月現在

※農地とは、一般農地、介在農地、市街化区域農地の合計であり、生産緑地地区を含む

農地面積及び生産緑地地区面積の推移

【課題】

農地の保全・活用

- ・農地は、生物の生息・生育環境の維持や美しい景観の形成、雨水貯留など多面的な役割を果たしているものの、担い手不足や住宅地開発などにより農地面積が減少していることから、農地の減少を抑制し、保全・活用していくことが求められます。

耕作放棄地への対応

- ・農地の減少や耕作放棄地の増加は、生態環境や景観などの質の低下を招くことが懸念されることから、農地を継続的に管理していく取り組みが求められます。



市街化区域内の農地



市街化調整区域内の農地

3) ため池

【現況】

- ・本市には、市の中部から東部にかけて多数のため池が分布しています。
- ・ため池は、農業用水としてだけでなく、トンボ、カエル、カメ、鳥類などの生物の生息・生育の場所となっています。また、みどりの土手が田園景観の一部をなすなど、多面的な役割を果たしています。
- ・津田の地蔵池では、地域住民と行政により遊歩道や東屋など、ため池を活用するための整備が行われています。

【課題】

ため池の保全

- ・ため池は、農業用水の確保、生物の生息環境、美しい田園景観として、多面的な役割を果たしていることから、保全していくことが求められます。



地蔵池

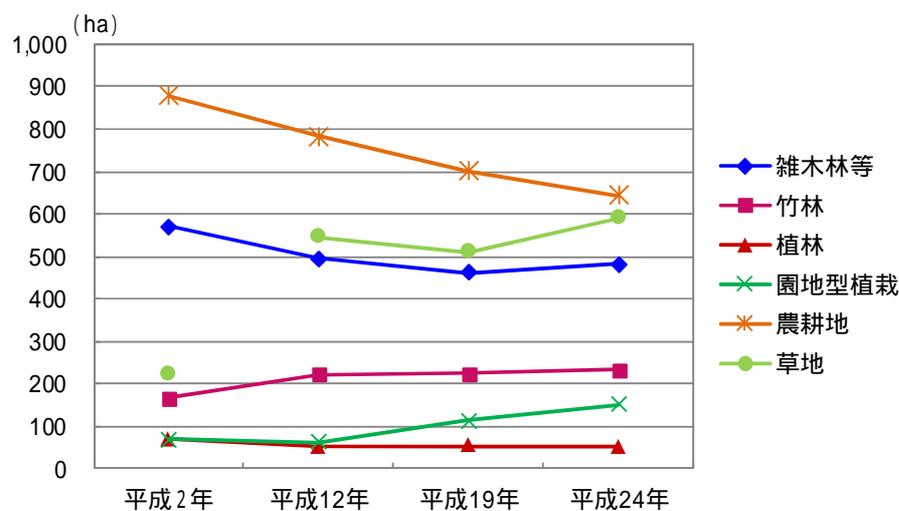


地蔵池の遊歩道

4) 社寺林・孤立林等

【現況】

- ・社寺林・孤立林等は、市民が身近に自然とふれあえる場となっており、市域の河岸段丘や斜面地に残るみどりは、淀川と東部の里山をつなぐ重要な存在となっています。
- ・段丘崖などの斜面緑地は、地域に特色のある美しい景観を創り出しており、都市計画マスタープランでは、市街地の保全すべき貴重なみどりとして位置付けられています。
- ・雑木林等の面積は、平成2年の約571haから平成24年の約481haへと22年間で約20%減少しています。
- ・市民ワークショップなどでは、開発などで雑木林をなくさないでほしいといった意見や、管理が十分にされていれば子どもの遊び場として活用できるといった意見がありました。



植生面積の経年変化

資料：枚方ふるさといきもの調査 報告書（平成25年3月）



万年寺山の樹林

【課題】

社寺林・孤立林等の保全・活用

- ・市街地の社寺林・孤立林等は、開発などにより一度失われると復元できないことから、保全していくことが重要となるため、地域の愛着の持てる貴重なみどりとして継続的に管理し、活用していくことが求められます。

(3) みどりの軸

1) 船橋川・穂谷川・天野川

【現況】

- ・船橋川・穂谷川・天野川は、市域を東西に流れる主な河川として市民に親しまれており、川沿いの遊歩道や桜並木、一部整備された自然巡回路など季節を感じながら利用できる場所となっています。
- ・川沿いには、農地や樹林地が広がる箇所が見られ、河川と一体となったみどりの軸が形成されている一方、農地や樹林地の減少に伴い景観や自然環境の機能が低下してきています。
- ・治水上必要なコンクリートブロック積護岸の区間は人工的な景観となっており、河川敷や水辺空間を楽しめる場所が限られています。
- ・河川の水質は、下水道の普及などにより年々改善し、近年では環境指標であるBODの環境基準値をほぼ達成しています。
- ・3河川の河川整備計画では、多自然川づくりによる生物の生息・生育環境の保全・再生、川と人との豊かなふれあいの場の維持・形成、地域住民が愛着を持てる空間づくり、水質の更なる改善などが位置付けられています。



穂谷川



穂谷川沿いの水田

【課題】

河川と周辺のみどりの保全

- ・船橋川・穂谷川・天野川の3河川は、東部の里山と淀川を結ぶみどりの軸を形成していることから、生物が連続して生息・生育する空間として、農地や樹林地を河川と一体的に保全することが求められます。

河川環境の改善

- ・コンクリートブロック積護岸の区間は、人工的な景観となり水辺空間に親しめる場所が少なくなっていることから、川と人とのふれあい、活動できる場や愛着を持てる水辺空間の創出、水質のさらなる改善など、市民に親しまれる川づくりが求められます。

2) 道路

①整備済の道路

【現況】

- ・サクラやハナミズキ、ケヤキなどの街路樹は、地域の魅力的な沿道景観を形成し、市民に親しまれています。
- ・市民アンケート調査結果では、約40%の方が枚方市で特に大事にすべきみどりは「道路の緑（街路樹、植樹帯など）」であると感じています。
- ・道路のみどりのネットワークは、地域に潤いを与え、生物の生息・生育空間を保全する効果がありますが、街路樹が不連続な区間が多く、みどりのネットワークが分断されています。
- ・市民からは、街路樹の強剪定や歩道の根上がりなど、維持管理について不満の声があります。
- ・船橋川・穂谷川・天野川沿いや国見山には、自然巡回路など歩行者に配慮した遊歩道が整備され、里山や川の自然を楽しむ散策路として、市民に親しまれています。
- ・市内には、京街道と東高野街道という2本の旧街道が通っています。沿道やその周辺には町家や社寺などが点在し、庭木や社寺林などと一体となった歴史的なみどりの景観を形成しています。



香里団地のケヤキ



街路樹の根上り



穂谷川の自然巡回路



京街道沿いの庭木

【課題】

沿道の緑化

- ・沿道のみどりは、東西をつなぐ3河川のみどりのネットワークを補完し、潤いのある環境を創出します。そのため、街路樹や沿道地域のみどりを保全し、多様な手法により連続性のある沿道緑化を進めていくことが求められます。
- ・里山や河川沿いの自然遊歩道や歴史資源と調和した旧街道においては、地域の魅力の向上につながるよう、みどりの保全や創出を進めていくことが求められます。

街路樹・植栽の維持管理

- ・街路樹の強剪定や歩道の根上がりなどの問題については、沿道住民の理解を得ながら、地域のニーズにあった手法で、維持管理を進めていく必要があります。

②未整備の道路

【現況】

- ・市内の都市計画道路の整備率は、61.8%（平成27年3月末時点）であり、新設の道路整備や道路改良工事の進捗に合わせて沿道の緑化を進めている状況です。
- ・全ての幹線道路に街路樹を植栽することは、限りある事業費や道路構造上の事由により難しい状況です。
- ・街路樹は、東西方向に比べて南北方向の幹線道路に少なく、みどりのネットワークとしては不十分な状況となっています。

【課題】

道路整備・改良に合わせたみどりの創出

- ・道路の整備・改良に合わせた沿道緑化は、積極的に進める必要があることから、道路の条件や事業費の軽減に配慮しながら街路樹の植栽や沿道地域の緑化など多様な手法により、効果的な緑化の整備・誘導を進めていくことが求められます。

(4) みどりの土地利用

1) 住宅地

① 計画的な住宅団地

【現況】

- ・くずはローズタウンなどの計画的に整備された住宅団地（ニュータウン）においては、広幅員の道路や歩道の街路樹、住宅の敷地内の樹木が、長い年月をかけて豊かに成長し、みどりに包まれた良好な住環境となっています。

【課題】

住宅地のみどりの継承

- ・計画的な住宅団地などにおいては、長い年月をかけて成長した街路樹や敷地内の樹木が、みどり豊かなまち並みを形成していることから、良好な住環境を保全し、次世代に継承していくことが求められます。

② 歴史的な家並みが残された集落

【現況】

- ・市内には、京街道や東高野街道などの旧街道が通っており、枚方宿地区や出屋敷といった古い集落や農村集落などには、社寺や宿場、屋敷などにふさわしい樹木や生垣などの歴史を感じさせるみどりが点在しています。
- ・京街道の枚方宿地区では、宿場や舟運の賑わいを想起させる街路整備が行われ、沿道では緑化に関するイベントなどの取り組みが行われています。
- ・歴史的な家並みが残された集落は、道路が狭くオープンスペースが少ない地区があり、防災面での問題があります。



枚方宿地区の家並み



農村集落

【課題】

歴史資源と調和したみどりの保全・創出

- ・歴史的な家並みが残された集落では、歴史資源と調和した社寺林や屋敷林などが残され、地域の特徴あるみどりとして市民に親しまれていることから、これらの貴重なみどりを保全していくことが求められます。また、オープンスペースなど地域の防災力を高めるみどりの創出が求められます。

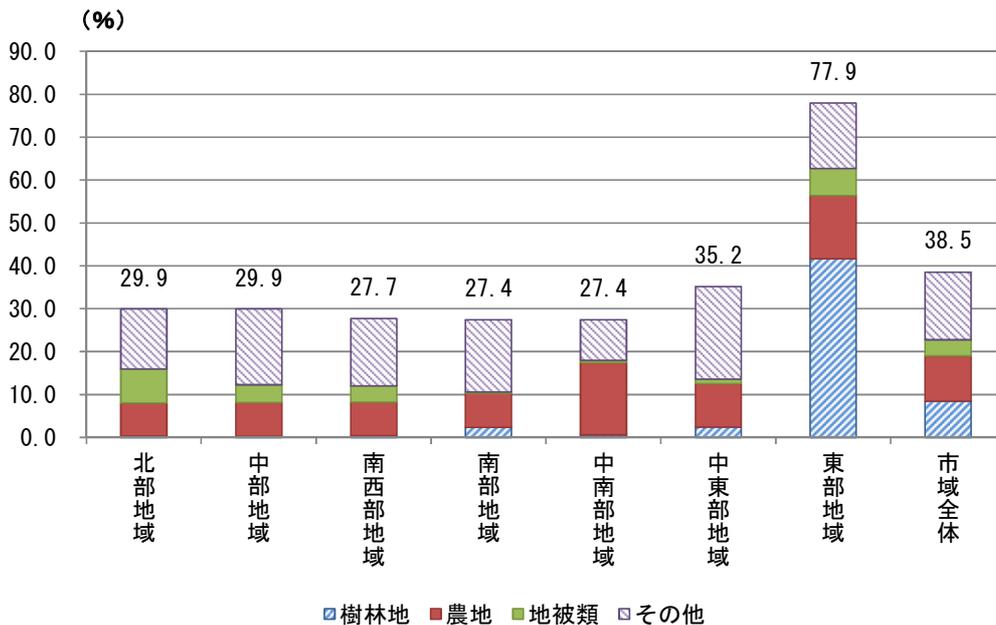
③一般住宅地

【現況】

- ・一般住宅地では、比較的小規模な住宅やアスファルト舗装の屋外駐車場が点在するなど、みどりの量が全体として少ない傾向があります。
- ・市民アンケート調査結果では、住まい周辺のみどりの量が「減った」あるいは「やや減った」と感じる人の割合が多くなっています。
- ・地区計画などによって開発された住宅地では、塀の設置制限や緑化基準を設けることにより、敷地のスペースを有効活用して緑化が行われています。
- ・住宅が密集する地区では、敷地内の空間やオープンスペースが限られるため、緑化できる場所が少なくなっています。
- ・地域別の緑被率は、里山のある東部地域で77.9%と高く、その他の地域では概ね30%前後ですが、南西部地域、南部地域、中南部地域では27~28%とやや低くなっています。



地域区分



※平成 25 年・26 年の衛星写真から図上計測

地域別の緑被率

【課題】

住宅地の特性に応じたみどりの創出

- ・一般住宅地は、市街地の大半を占めており、みどりの創出が緑被率の向上に寄与する割合が大きいことから、地域の特性を踏まえ、敷地やオープンスペースを活用した緑化が求められます。

2) 商業地

①鉄道駅周辺

【現況】

- ・鉄道駅周辺は、商業施設が集積し、多くの市民が集まる拠点となっており、景観形成の方向性として「枚方市都市景観基本計画」では、「地域の核となる魅力にあふれにぎわいに満ちた場づくりの推進」が位置付けられています。
- ・市民アンケート調査結果では、市民の約30%が枚方市で特に大事にすべきみどりは「駅周辺などの商業地で目にうるおいを与えるみどり」と感じています。
- ・駅周辺の商業地は、樹木を植えられるスペースが少ないことから、緑被率は他の地域よりも小さく、みどりが不足している状況です。
- ・「第2次枚方市環境基本計画」では、都市部の気温が郊外に比べて島状に高くなるヒートアイランド現象への取り組みが位置付けられています。枚方市駅や樟葉駅、牧野駅周辺では、建物やアスファルトにより地表面が覆われる割合が高く、他の地域と比べて地表面温度が高くなり、気温が上昇しやすい状況となっています。



枚方市駅周辺



樟葉駅周辺



光善寺駅周辺

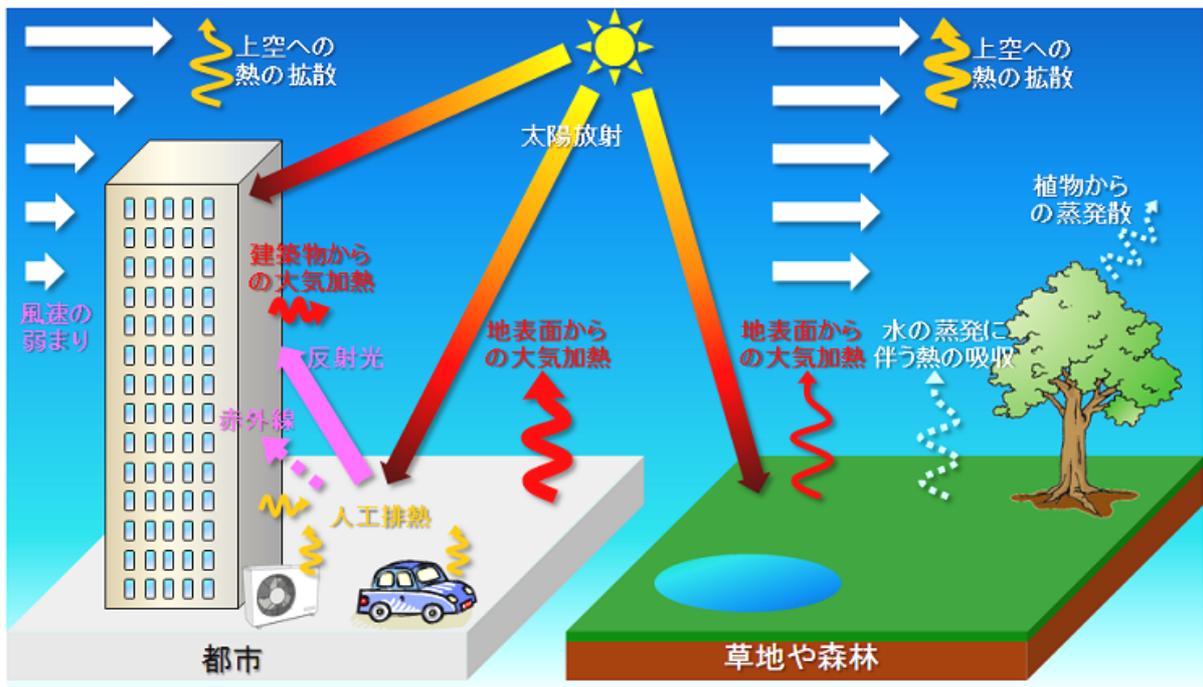
【課題】

みどりを楽しむシンボリックな緑化空間の創出

- ・建築物が密集した鉄道駅周辺はみどりを増やすことが難しいことから、目に見えるみどりの量や植栽樹種に配慮したみどりを楽しむ空間や、まちのシンボルとなる緑化空間の創出が求められます。

ヒートアイランド現象への配慮

- ・商業地は、建物やアスファルトにより覆われた部分が多く、地表面温度の高温化は気温を上昇しやすくする一因となっていることから、商業地内に緑化空間を増やすことや駐車場を芝生化するなど、ヒートアイランド現象への配慮が求められます。



資料：気象庁

ヒートアイランド現象の概念図

②沿道商業地

【現況】

- ・沿道商業地は、敷地に余裕がないことなどからみどりが少なく、潤いのない雑然とした景観となっている区間が多く見られます。
- ・「枚方市都市景観基本計画」では、景観形成の方向性として「郊外型商業施設における敷地内の緑化の推進」が位置付けられています。
- ・国道1号、国道170号の沿道商業地では、他の地域に比べて緑被率が低く、みどりが不足している状況です。



国道1号沿道の商業地

【課題】

沿道の緑化

- ・沿道商業地は、緑化スペースの確保が難しく、みどりが少ない状況となっていることから、沿道の緑化手法について検討が求められます。

3) 工業地

①大規模工場地

【現況】

- ・大規模工場地では、工場立地法に基づき敷地面積に対して一定割合の緑地が確保されており、敷地内や駐車場、建物の屋上などを積極的に緑化している例が見られます。
- ・計画的に整備された工業団地では、斜面地の緑化や生垣の設置、緩衝緑地を設けるなど、みどりや景観への配慮が見られます。
- ・大規模工場地の敷地には、まとまった緑地があるものの、外周部の植栽が少なく周辺のみどりと連続していない状況や、地域住民が工場内の緑地にふれる機会が少ない状況が見られます。
- ・工業地は、建物やアスファルトに覆われる面積が広いことなどから、他の地域と比べて地表面温度が高くなっています。「第2次枚方市環境基本計画」では、ヒートアイランド現象への取り組みが位置付けられています。



コマツ大阪工場



津田サイエンスヒルズ



枚方企業団地

【課題】

みどりの保全と地域への貢献

- ・大規模工場地のまとまりのあるみどりは、地域における貴重な資源として保全し、地域に親しまれるみどりとして活用していくことが求められます。

ヒートアイランド現象への配慮

- ・工場内の広大な敷地は、建物やアスファルトに覆われており、地表面温度の高温化は気温を上昇しやすくする一因となっていることから、工業団地内や敷地内に緑化空間を増やすことや駐車場を芝生化するなど、ヒートアイランド現象への配慮が求められます。

②中小工場地

【現況】

- ・ 中小規模の工場地は、敷地面積が狭く、緑化できる場所が少ないことなどから、みどりが少ない状況となっています。



中小工場地

【課題】

敷地内のみどりの創出

- ・ 中小工場地には、住宅地や商業施設が近接している場所もあることから、周辺の景観や環境に配慮した緑化の誘導が求められます。

4) 公共公益施設等

【現況】

- ・小中学校や高等学校などの公共公益施設のみどりは、多くの人の目にふれることから、地域緑化のモデルとなります。
- ・小中学校では、中高木の植樹や学校環境整備 PFI 事業、校庭の芝生化、ビオトープ池の整備などの緑化を進めてきましたが、樹木の剪定や落ち葉の処理など、緑化後の維持管理体制が整っていないなどの問題が生じています。
- ・小中学校の校庭の全面芝生化やビオトープ池の設置の実績は少なく、小中学校以外の公共公益施設の緑化もあまり進んでいない状況です。
- ・市内には、大阪工業大学、大阪国際大学、大阪歯科大学、関西医科大学、関西外国語大学、摂南大学の6大学があり、広いキャンパスには樹木や芝生地、花壇など豊かなみどりが育まれています。



校庭の芝生化

【課題】

先導的な緑化推進

- ・公共公益施設等は、多くの市民が訪れる地域の中心であることから、郷土樹種や周辺地域のみどりとの連続性に配慮し、地域の特色となる先導的な緑化の推進が求められます。

公共公益施設等のみどりの保全・創出

- ・小中学校や高等学校などは、緑化を行った後のみどりの維持管理体制が整っていないなどの問題があることから、有効な管理手法の検討が求められます。
- ・大学キャンパスの豊かなみどりは、地域のシンボルとなることから、大学と連携しながら、良質なみどりを保全・創出していくことが求められます。

2 - 3 . みどりづくりの仕組みからみた課題

(1) 多様な主体の連携

【現況】

- ・本市では、環境美化の取り組みとして「アダプトプログラム」を実施しており、公園や道路、駅周辺などにおいて、多くのボランティア団体が、みどりの量や質を向上させるための市民による活発な活動を行っています。
- ・東部の里山においては、複数の里山保全活動団体が里山の美しい景観や豊かな自然環境を守る取り組みを行っています。
- ・市民ワークショップでは、メンバーの固定化や高齢化により、活動の継続や発展が難しいという意見がありました。
- ・緑地保全・緑化推進活動においては、環境問題への意識の高まりとともに、事業者の社会・環境貢献活動（CSR 活動）が注目されているものの、事業者・大学が地域と連携して取り組む仕組みがなく、実績も少ない状況となっています。
- ・市民ワークショップなどでは、みどりに関わる地権者や市民、市民団体、事業者・大学などを仲介し、コーディネートする仕組みがなく、市民相互の情報交換の場など、多様な主体が連携する仕組みが不足しているという意見がありました。

【課題】

市民、市民団体、事業者・大学の連携と活動継続の支援

- ・市民や市民団体によるみどりの活動を活性化し、次世代へと継続していくためには、魅力的な活動の機会を提供し、多様な主体の参加を促進することが求められます。
- ・みどりの活動への参加の促進にあたっては、事業者・大学などが企画や組織力、知識、技術を活かし、地域の一員としてみどりの活動に取り組み、互いに連携できる仕組みづくりが求められます。

多様な主体の連携への支援・強化

- ・みどりに関わる多様な主体が連携し、活動を拡充・展開していくためには、異なる主体間をコーディネートし、連携がスムーズに図られるよう、積極的な支援が求められます。



枚方市公園、緑地等のアダプトプログラムの活動状況

(2) 情報発信・意識啓発

【現況】

- ・市民ワークショップなどでは、みどりづくりの楽しさやみどりの魅力などの市民への情報発信が不十分であるため、活動への参加につながらないとの意見がありました。
- ・市の緑化イベントや緑化支援事業については、ホームページや市広報などで周知しても、知らない市民が多く、緑化に関する情報発信が不十分な状況となっています。
- ・市民や事業者の緑化意識の啓発にあたっては、花いっぱい運動や苗木・種子の配布など、花とみどりにふれあい、育てる機会を増やすことに取り組んでいます。

【課題】

情報発信の強化

- ・市民、市民団体、事業者・大学に対し、みどりの魅力やみどりづくりについて理解を深めてもらうためには、情報の内容の充実や多分野・多方面へ情報提供を行うなど、情報発信の強化が求められます。

みどりとのふれあいによる意識啓発

- ・市民、市民団体、事業者・大学の緑化意識を高めるためには、みどりとふれあい育てる機会を創出し、意識啓発を行うことが求められます。

(3) 財源確保

【現況】

- ・みどりの活動を継続的に行うためには、これまで取り組みが遅れていたみどりづくりに多様な主体が参加できる仕組みづくりや、多様な主体の活動を相互に連携させ支援する必要があり、そのための新たな費用がかかります。
- ・未着手の都市計画公園・緑地は、市内に14箇所（面積42.32ha）あります。
- ・小規模公園には、整備後の状況変化により、あまり利用されていないものが見られます。
- ・市民アンケート調査結果では、約90%の方が緑地の保全や創出などを目的とした寄附について賛成しています。

【課題】

効率的な事業展開や財源確保の仕組みづくり

- ・公園の整備や維持補修、みどりに関わる多様な主体の連携への継続的な支援などについては、地域ニーズの経年変化に配慮しつつ、新たな財源確保の仕組みづくりが求められます。
- ・未着手・未完成の都市計画公園・緑地の計画の見直しにおいては、地域ニーズを踏まえた小規模公園の統廃合など、効率的な事業展開が求められます。